

に分け、各班から当番表作成や例会議事録作成など運営に関する作業に携わる人(リーダー)を選出し、各班のリーダーと植物公園事務局で調整しながら運営してきた。リーダーの任期は4か月とし、奇数班と偶数班の任期を2か月間ずらして新旧のリーダーの担当期間を重複させ、引継を行いやしくしている。イベント時に行っている苔玉・リース販売などは、中心になる人が責任者となり準備運営を自主的に行った。

終わりに

令和2年は新型コロナウイルス感染症が世界的に拡がり、当園もイベントの中止や規模縮小、臨時休園などの影響を受けた。そのような状況下において、ガイド活動は来園者と直接触れ合い、至近距離で解説を行うため感染リスクが高いと考えられ、実際に

ガイド活動を自粛されるボランティアの方も見られた。緊急事態宣言解除後は定期ガイドを再開したが、マスクの着用や対人距離の確保など基本的な感染症対策を徹底したうえでの再開とした。幸い、本稿執筆時までにはガイドボランティア関係者からの新型コロナウイルス感染者の発生は確認されなかった。申込ガイドに関しては、園内でガイドツアーを行う際の制限人数等についての指針が策定されたため、それを基準に、感染拡大の状況を踏まえて再開の可否について検討を行いたい。

ガイドボランティア制度は園内の見頃の植物を来園者に解説し、来園者に一層の満足を提供するものであるとともに、ボランティア参加者にとっての社会参画の場でもある。引き続き新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、ガイドボランティア活動が安全に実施していけるよう努めたい。

令和2年度植物友の会活動記録

久保晴盛・高井敦雄

はじめに

植物友の会は、植物に興味を持つ一般から募集した人達の集まりで、植物公園を活動の場として植物愛好者が集い、植物・園芸に関する知識・技術の向上を図り、自然保護の心を育てることを目的に、昭和54年10月に設立された会である。

令和3年1月現在、会員数は個人会員が71(△36)人、家族会員が16組32人(4)の計103名である。()内は昨年度同月からの増減会員数、△は減。

会費制度の見直しについて

ここ数年の間に植物友の会は、会員数の減少および会員の固定化・高齢化が著しく進み、会全体として積極的な活動を実施することが難しい状態が続いていた。その一因として、会費制度の問題があり、新規入会の障壁となっていた。そこで、令和2年度から年会費を無料化し、従来通り会報などの郵送を希望される方に郵送費を実費負担する形に制度を見直した。その結果、今年度は38名の新規入会があった

ものの、コロナ禍で更新時期に臨時休園していたことも影響し、会員数は32名減少した。また、会員の平均年齢は71.9歳から69.5歳へと若干ではあるが、若返った。

活動

植物友の会では、年6回の例会、年3回の野外観察会、会誌「はなの輪」の発行などを主な活動として行っている。また、園内ボランティア(友の会ボランティア)、部会活動(植物同好会)などは通年で活動している。

(1) 例会(表1)

2か月に1回の定例会を展示資料館2階講堂で行っている。季節の園芸作業、植物に関する講話や園内の植物ガイドなどを職員が持ち回りで行った。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う臨時休園により、第1回・第5回例会は中止となった。また、密を避けるため、園内の植物観察は行わず、スライドで解説する形で対応した。例会の前には運営委員会を開催し、友の会の活動方針などを随時協議した。

(2) 観察会(表2)

新型コロナウイルス感染症の影響で当初予定の観察会は全て中止とした。バスを借上げて移動することが当面困難なため、代替として、公共交通機関で移動できる近場かつ外部講師を招聘しない形で実施

表1 例会の内容

第1回	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う臨時休園のため中止
5月17日	
第2回	・園芸作業
7月19日	観葉植物の仕立て直し
参加者25名	変化朝顔を育ててみよう
第3回	・園芸作業 ・行事報告
9月13日	鉢植えピカクシダの板付け
参加者30名	秋まきの種、秋植えの球根
第4回	・講話：日本アルプスの山々と高山植物
11月15日	・特別企画展解説
参加者33名	
第5回	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う臨時休園のため中止
2月7日	
第6回	・総会
3月6日	・植物に関する講話（予定）

表2 野外観察会の開催地と場所

第1回	・平和大通り（被爆樹木巡り）
10月11日	・はなの輪会場（旧市民球場）視察
参加者10名	
第2回	・新牛田公園バラ園
11月8日	
参加者4名	

することとし、10月と11月に広島市内で計2回実施した。

（3）展示会

植物同好会の会員が自宅で栽培している季節の山野草などの植物を展示する「植物同好会ロビー展示」を9月12日（土）から17日（木）の日程で開催した。当初計画では、5月16日（土）・17日（日）に実施する予定としていたが、臨時休園に伴い中止となった。

（4）園内ボランティア（表3）

第1・第3火曜日に有志を募って通年で開催した。大温室やベゴニア温室周辺の施肥や花の植え付けなどの植栽管理、屋外の樹木剪定、ハンギングバスケット作成やクリスマスを飾るフラワー展の装飾など多岐にわたって園内の魅力向上に貢献いただいた。

表3 令和2年度友の会ボランティア活動記録

活動月	活動内容	合計人数
4月	休止	0
5月	休止	0
6月	植栽管理（ベゴニア・大温室・うらら池） はなの輪発送	14
7月	植栽管理（栽培温室・大温室）	5
8月	植替・花がら取り等（育苗温室）	5
9月	植栽管理（ベゴニア・大温室・栽培温室）、 ハンギングバスケット作り、はなの輪発送	10
10月	植栽管理（ベゴニア・大温室・栽培温室）	13
11月	クリスマス展飾付、ハンギング作成	13
12月	植栽管理（栽培温室・大温室）	10

表4 会誌「はなの輪の発行」

平成2年4月	2020通巻163号（春～初夏号）
令和2年7月	2020通巻164号（夏号）
令和2年10月	2020通巻165号（秋号）
令和3年1月	2021通巻166号（冬～初春号）

（5）会誌「はなの輪」の発行（表4）

平成25年度より、各号300部印刷することとしており、過剰在庫などを関係団体、新入会員へ分譲した。会誌は、A4版8ページ（観音開き）のリーフレットとして発行し、あわせて、会員向けのニュースレターを例会毎に発行した。

はなの輪については、植物公園の機関誌として、1500部を別途公民館等に配布し（163号、166号の配布は臨時休園期間中のため中止）、植物公園ウェブページでも随時公開した。

（6）部会

友の会部会活動は現在植物同好会（旧山草部会）の一部会のみである。本年度より、山草部会が植物同好会に名称を変更し、会費制を取りやめることとなった。部会の解散ではなく、当面は従前の通り活動することとなり、部会独自の野外観察会や5月と9月の例会に併せて開催する展示資料館ロビー展示と、2か月に1回友の会例会前の午前中に部会例会

などを開いている。また、部会員が栽培・育成した苗木の交換も行っている。部会活動は事務局の運営下ではなく自主的に運営されている。

今年度より見直し・中止した活動

(1) 講習会

今年度からは、友の会として講習会を企画しないこととした。代替として、園で企画する各種講習会・実演会を紹介し、参加をあっせんした。

(2) 植物友の会作品展

年々出品者・出品作品数が減少していたことから、発足40年となる昨年度の展示会をもって、植物友の会作品展の開催を休止することとした。代替として、展示資料館ロビーに展示スペースを設けることとし、ニュースレター等で呼びかけたが、応募者がなく展

示はできなかった。今後とも、会員の相互の交流と植物に関する成果発表の場を提供できるように、運用を見直していきたい。

まとめ

新型コロナウイルス感染症拡大の影響は友の会活動にも大きな影を落としており、例会等の行事の開催や会員同士の交流などに制限が多い年となった。友の会制度の大幅な見直しと重なったこともあり、会員の入れ替わりも多かった。そのため、会員相互の交流を深め、会の方向性を一にしていけることが直近の大きな課題である。会員の要望に耳を傾けながら、より活発な友の会活動が実施できるように園としてできる様々な施策を講じていきたいと考えている。また、公民館等への広報を積極的に行い、来年度は会員数の増加に繋げていきたい。

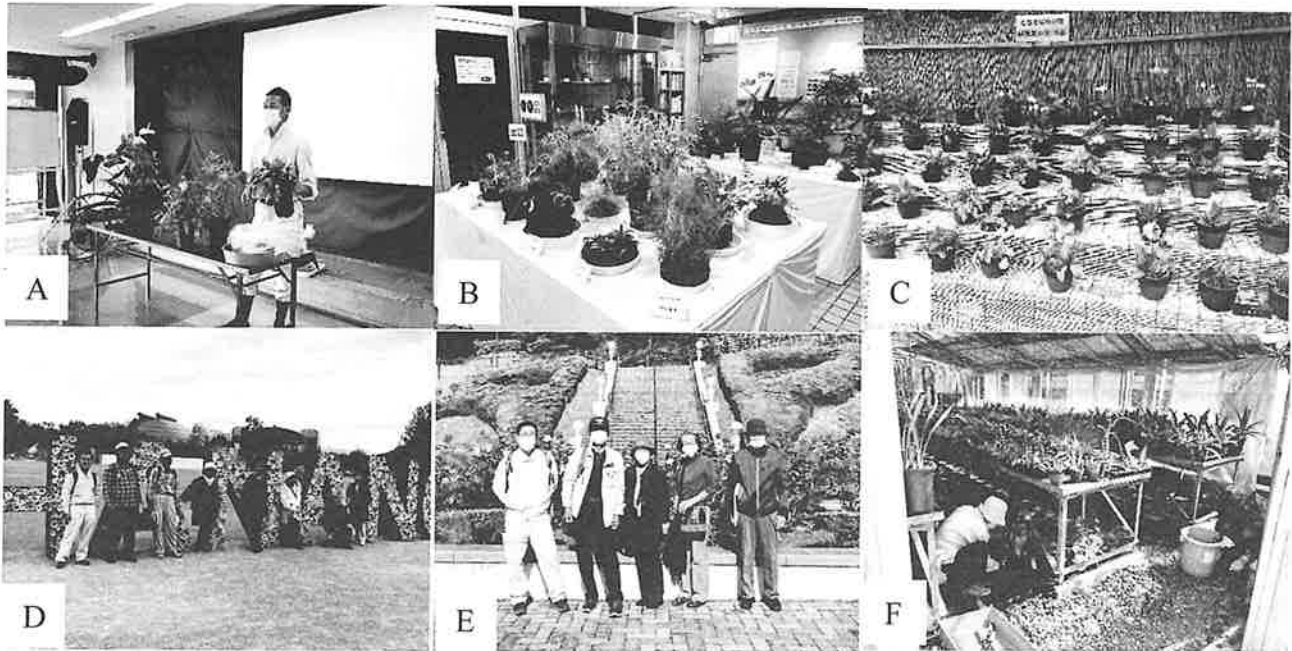


図 活動の様子

A：第2回例会 「観葉植物の仕立て直し」、B：植物同好会ロビー展示（山野草）、C：サクラソウ展 展示協力、D：第1回野外観察会 はなの輪会場視察、E：第2回野外観察会 牛田バラ園、F：友の会ボランティア 栽培温室の除草